

たゞ！私たもは忘れない
この新しい歴史の中で
生命をかけて、たゞの望を
私たもは忘れない！

叛乱者集団

日本大学理互各フクシヨフ討証会
村刊紙・情宣紙 1970-11.18
*9号

ぼくらの前に何かある！

閉ざされたぼくら世界の前にある、新しい響きへ向けてのぼくら側からの歩は、今状況としての秩序の前に、そのさらなる展開を必要としている。今こそ最も自立した歩を必要としている時だ！

9号館建設予定地境ノ突進斗争を11.14に貫徹しぬく中で、我々の理互各フクシヨフの歩を踏むに我々から、その歩の本質を提呈したいと思ひます。現在本村執行部が計画している9号館大学院大学打想とのもの本質は大きくは新三ヶ年計画としてあり、その新三ヶ年計画の本質は我々がこれまで提呈して来たように日帝近代管理主義路線を貫徹するものとして存在する。日帝管理体制における日大の社会位置そのものの進化を知らんとする古田奪い古田体制そのものである。そこにおいて個々がより管理され自己の一切の自由性は抹殺されていく中で我々は一切の自由を以て共有を望む事をいふさねないであろう。

そのように9号館大学院大学打想は、日本帝国主義の再編過程としてより管理化と管理体制を一つの契機としていく。つまり科学的技術取得と支配イデオロギー注入をメルクマールに、大学の目的別管理をより高度に貫徹しようとしているに於ける。日帝の社会進歩と国際競争に対処するための高度の学術研究をおこなふとし、高度の学術研究と研究者の養成として「大学院大学」は文部省の中核的打想の完全なる先どりである。

この問題に対する我々からの接近は、本村の二見院主義のコースの中において理互各フクシヨフに充満している、近代的あるいは管理的管理イデオロギーの中に見出しに相対している科学技術の犯罪性を明確に見ぬく必要がある。インテリの服面をかぶり学術研究を至上命令に、単に高度化された知識をよりきつる彼らの犯罪性を、として多く科学技術者の犯罪性を食ふは近代管理主義イデオロギー見体の犯罪性として「自主シンボム」を通じてあるいは独自の運動の中で暴露してきた。

として争った戦占資本にあるいは国家に奉仕する人材養成として9号館大学院大学は存在しようとしてい

てきた自己の犯罪性、市民意識性をその歩の甲で解体していかねばならぬ。

我々はこうい、た運動を通じてはじめて現在あるゆる社会領域でよりかかっている歩に連帯できるのだということを見えなく必要がある。これが我々からの彼ら側へ（弁論、入館、公意）への連帯の質である。我々はそのように各観点で11.14突進斗争を貫徹しぬいたのである！

10.21国際反戦デーの覚悟への我々の接近

日本大学師範部同窓会に大学当局の管理支配が貫徹されている中で10.21国際反戦デーは全国的に大規模な集會が繰り広げられたのも一定程度の非體的な覚悟をせざるを得ない。とりわけ神田地区の支配が民衆による抗争支配へと移行しようとしている時のカンパニア集會がもたらすものは何を意味するのかが、68年10.21斗争が歴史的なエネルギーをもちえたのも全国での大学に於ける原則的方針があったからであるという事を確認するならば我々は再度大学解体の歩を具体的に管理攻撃＝日大三ヶ年計画を崩壊していく必要があるだろう。その犯罪的内容は、一定程度の厚生施設の建設に隠れた教育体制の再編強化でしかないという事、もといえは民衆諸君の死に要求するところの先取りである。しかし一歩踏み出せばならぬのは、大学と国家との相関関係から大学管理体制を把握しなくてはならぬという事である。また我々の古田古田体制を単に管理進歩の観点で捉えるのではなくマンモス大学が担ってきた役割とい

11.18理互各フクシヨフ討証会

PM 5:00 ~ PM 10:00 理互17号館サークル室

11.19新三ヶ年計画説明会粉砕集會

本村執行部による新三ヶ年計画の暴行の暴露集會

理互各フクシヨフ討証会 PM 12:00 7号館新館集會